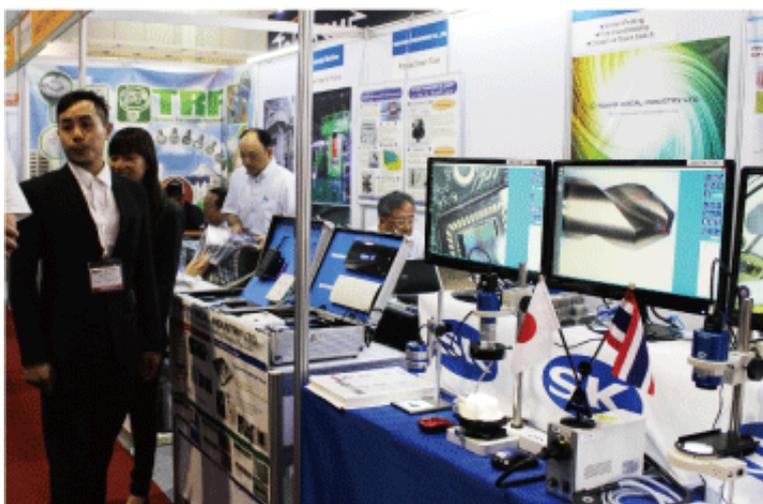


タイ 2016/05/12 (木曜日)

裾野産業見本市が開幕：神奈川から9社、県は支援を強化 【製造】

裾野産業見本市「サブコン・タイランド」が11日、タイのバンコク東部バンナーで開幕した。国内外18カ国の350社・団体以上が出展。「ジャパン・ゾーン」には20社以上がブースを設置し、神奈川県からは中小企業の海外進出を支援する2団体が参加。バイオ発電機や温度制御モジュールの製造企業など9社が技術力をアピールしている。中国市場の低迷を受け、タイに販路拡大を求める企業が増加する中、県は中小企業のタイ進出支援を強化する。

6回目の参加となる神奈川産業振興センター（K I P）から5社、横浜市中小企業支援センターから4社が出展。K I P 事業部取引振興課の上野慎山・主任主事によると、県内の製造業は従来中国への進出が目立っていたが、中国経済の減速を受け、東南アジアへの販路を拡大する動きが活発化している。今後は製造業が集積するタイやベトナムなどへの中小企業の進出を念頭に置き、展示会の出展やセミナー開催などの支援をさらに強化する方針を明らかにした。



マイクروسコープを展示する斉藤光学のブース＝11日、バンコク（NNA撮影）

環境エネルギー事業を手掛けるファインテック（横浜市緑区）は、コーヒーかすなどの廃棄物を燃料に、発電効率を向上させる「トレファクション（半炭化）」技術を利用した可動式の発電機を製造。タイでバイオエネルギー事業が活性化していることを背景に、来年にも同発電機の輸出を開始したい考え。

同社は、タイの石炭開発会社バンブーが福島県で進める太陽光発電事業も支援。バンブーは2011年の東日本大震災以降、福島県内で使われなくなったゴルフ場で発電所の建設を開始している。同事業の投資額は約100億円で、出力は2万キロワット（kW）。来年4月に稼働する見通し。今後は同社とタイ国内で発電事業を進める計画で、向こう1年で10億円の売上高を見込む。

マイクروسコープを製造・販売する斉藤光学（横浜市戸塚区）は、昨年につき2度目の参加。同社が手掛けるマイクروسコープは、パソコンやモニターに接続するタイプで、主に自動車部品や電子部品の検品作業に使用される。斉藤清志社長は、日本市場は回復傾向にあるものの、海外での販路拡大はリスクヘッジとして必要不可欠とみる。向こう1年のタイでの売上高を日本事業と同水準にする目標を掲げている。

「ペルチェ」と呼ばれる冷却加熱素子を採用した温度制御モジュールを製造するセンサーコントロールズ（横浜市中区）は、3年前にタイへの輸出を開始。同社の担当者によると、中国などの東アジア向けに年間数百個を輸出しているのに対し、タイへの輸出量はまだまだわずか。同社が製造するモジュールは自動車のセンサーなどに使われることから、自動車の製造拠点が集積するタイで販路を拡大し、向こう3～4年で販売量を現行比10倍に引

き上げる考え。

■ 商談件数は5千件

サブコンを主催するタイ投資委員会（BOI）傘下の産業連携促進ユニット（BUILD）の担当者によると、今年の商談件数、成約額はともに前を上回り、それぞれ5,000件、80億バーツ（約250億円）に達する見通し。来場者は年平均の2万5,000人程度と見込む。

サブコン・タイランドは、BUILDと国際会議や展示会運営を手掛けるUBMアジア（タイランド）、タイ下請振興協会（タイ・サブコン）が主催。展示会場「バイテック・バンナー」で14日まで開催される。



センサーコントロールズの製造する冷却加熱素子を採用したモジュール=11日、バンコク（NNA撮影）